

NOAH NEWS

2023年2月号

編集者 檀上

こんにちは。2022年度より勤務しております、獣医師の檀上(ダンジョウ)です。

今月号は「犬と猫の輸血」についてお話ししたいと思います。

どうぶつの医療では、人のように血液バンクがありません。したがって血液の安定的な供給が困難な場合が多く、悔しい思いをすることは少なくないのです。

このような背景から、少しでも輸血に関して興味をもって頂ければと思い、この題材を取り上げました。

ドナー登録していた 場合、お電話あ るいは来院時にその旨 をスタッフにお伝えく ださい。

～輸血で救える命がある！！～

1. なぜ輸血が必要??

貧血、凝固異常(血が止まりにくくなる)などで血液の成分が不足している患者さんは、生命の危機に瀕している場合がほとんどです。そのような時に有効な治療が輸血です。健康なワンちゃん、ネコちゃん(ドナー)から血液を分けていただき、状態の改善を図ります。

2. ワンちゃんとネコちゃんの血液型

 ワンちゃん 

DEA1.1(+),(-)の2種類

 ネコちゃん 

A, B, AB の3種類

※血液をもらう側(レシピエント)とあげる側(ドナー)で相性があります。

3. 血液をあげる側(ドナー)の条件

- ・年齢：満1歳～8歳
- ・体重：25kg以上(犬)、5kg以上(猫)を推奨
- ・妊娠歴がないこと
- ・1年ごとのワクチン接種および寄生虫予防の実施
- ・特定の感染症に罹患していないこと

※日本獣医輸血研究会より

ドナー登録お待ちしております！！

4. 輸血の方法・手順

1. ドナーの健康診断(身体検査・血液検査)
2. 交差適合試験(血液が合うかどうか調べる検査)
3. 献血のための採血
4. 輸血による副反応が出ないかモニターしながら輸血開始

